宗教新聞

発行所 宗教新聞社
東京都新宿区新宿5-13-2
〒160-0022
電話 03-3353-2940(代)
FAX 03-5363-5182
郵便振替口座 00130-9-22704
URL http://www.religion-news.net
©宗教新聞社 2023

購読料（税込）
1部 500円
半年 3,000円（〒共）
年間 6,000円（〒共）

〈社是〉
一、精神革命の旗手
一、宗教連合の具現
一、地上天国の建設

戦没者のみたまを慰める

靖国神社で「みたまつり」
都心を黄金に染める光の祭典

靖國神社（山口建史宮司、東京・九段）の光の祭典、第76回「みたままつり」が7月13日から16日までの4日間開催された。みたままつりは、境内に数多くの献灯（みあかし）を掲げ、戦没者のみたまを慰める夏祭り。昭和21年のお盆に長野県遺族会が境内で盆踊り大会を開催したのがきっかけで、翌22年から始まった。

献灯が並ぶ参道＝7月13日、靖国神社

外苑参道の両側には約1万の大型献灯が並ぶ。夕刻になると一斉に灯が灯り、東京都心の夜空を黄金色に染めた。遺族、戦友、崇敬者、宗教団体などから奉納された献灯の一つ一つに奉納者の名前が墨書されている。内苑には全国から奉納された約2万の小型献灯が掲げられ、境内は幻想的な雰囲気に包まれている。

期間中毎日午後5時から本殿で祭儀が斎行された。午後8時半までは随時正式参拝がなされ、夜間は本殿に最も近い神域の中庭参拝がゆるされた。

13日夕刻、白いユニフォームの千修吹奏楽団は第一鳥居からドラムのリズムと管楽器の音色を響かせて外苑参道を進んだ。第二鳥居から楽器を納め静寂の内に神門をくぐり拝殿前まで進み出て整列。参拝ののち荘厳に「海ゆかば」の演奏を奉納した。

午後7時、能楽堂では日本歌手協会有志による「奉納歌謡公演。「誰か故郷を想わざる」で始まり、懐かしき歌の数々が英霊に届けられた。午後8時半からは、拝殿横で崇教真光青年隊が五色太鼓を奉納。夕闇が拝殿を包む中、勇壮な鼓動が響き渡った。

その他、日本舞踊、浪曲、民謡、漫談、雅楽、琉球舞踊、浪曲、古武道、モダンダンス等各種の芸能が連日次々に奉納された。15日午後7時からは「つのだ☆ひろ奉納特別野外コンサート」が行われた。15日夕には第一鳥居から拝殿前まで大本山増上寺熊野みこし講の神輿曳き回し、16日夕には、近隣の子供たちによるこどもみこし、麹町

千修吹奏楽団のブラスバンドパレード＝靖国神社参道

靖國講・大妻女子大学の神輿曳き回しが行われた。

境内には、各界著名人による約300点の懸ぼんぼりと、著名俳人の献句、全国からの2000の献句から選ばれた預選句150句の献句ぼんぼりが掲げられた。神門には、宮城縣護國神社奉納の仙台七夕が彩を添え、遊就館本館玄関には青森ねぶた飾、弘前ねぷた飾り、秋田湯沢絵灯籠、広島宮島管絃船など全国より奉納された有名燈籠が展示された。

遊就館では、昨年の前期展示に続く特別展「海鳴りのかなた～波間より現れる戦中の記憶～」（後期展示）が開催中。大海原で最期を遂げた英霊の愛用品や手記、沈没した戦艦や輸送船のいまを伝える写真や映像が展示されている。

灯

「（主は言われる。）雨も雪も、ひとたび天から降れば／むなしく天に戻ることはない。／それは大地を潤し、芽を出させ、生い茂らせ／種蒔く人には種を与え／食べる人には糧を与える。／そのように、わたしの口から出るわたしの言葉も／むなしくは、わたしのもとに戻らない。／それはわたしの望むことを成し遂げ／わたしが与えた使命を必ず果たす。」（イザヤ55：10―11）

聖書をはじめ宗教の諸経典は、人類の宝であり、行く手を照らす灯として、苦海を渡る人生の導き手となってきた。「みことば」は時に「種」にたとえられる。生命の活力となるエネルギーがそこに詰まっているからだろう。よき地にまかれた種は、やがて芽を出し、枝葉を広げ、花を咲かせ実を結ぶ。人の心にまかれた経典のことばは、なえた心を励まし、疲れた心を慰め、生きる力を与える。時に良心の声としてその人を善き行いへと導く。神仏のことばに従って生きる者は、そのことばが彼の人格を現わすものとなる。神仏のことばを軽んじてはならない。（1）

天地

酒米の田植えをしてからひと月後、2枚の田んぼにコナギが茂っているとの知らせがあった。コナギはミズアオイに似た水生植物で、最初はササのような葉が、次第に丸くなり、ホテイアオイのような青い花を咲かせる。肥料の吸収力が強く、苗の成長を妨げるので早く駆除しないといけない▼種で増えるので、田んぼに種が落ちていたのだろうが、発生する田としない田とがあり、その違いはよく分からない。観察を怠らず、適切な時期に適切に対処するしかない▼天地子が両親の農作業を手伝っていたころ、一番草労だなと思ったのは雑草取り。暑い時期に、とげのついた農具で田んぼを往復し、根こそぎ取っていた。近年は、田植えの後に水を張り、除草剤を散布すれば、雑草の発生を抑えられるようになったので楽になったのだが、雑草もしたたかに生き延びている▼さらに問題なのは、俗にジャンボタニシと呼ばれているスクミリンゴガイの発生。南米原産で、食用に台湾から持ち込まれたのが野生化し、幼生が苗を食べる食害が広がっている。気が付くと、一つの田んぼは3分の1ほどの苗が消えていて、大小のタニシが無数に繁殖していた。普及センターに相談すると、もう手遅れなので、収穫後、消石灰をまいて駆除することにした。その影響が残るので、裏作の小麦がまけない田が数枚出るだろう▼牧草から広がったイタリアンなど外来種の雑草もあり、これも国際化の負の側面の一つ。まさに縁は世界につながっていて、そんなところから無限を感じたりもする。

社説

現代人の「祈り」と「救い」

浄瑠璃寺の国宝九体阿弥陀像は平安時代後期、阿弥陀を念じると極楽浄土へ迎えられるという浄土信仰の広まりを伝えるもの。阿弥陀仏の「お迎え」は、その人の生前の行いによって上品上生から下品下生まで九つのランクに分けられるので、九品を象徴する9体の阿弥陀如来を並べ、横長の堂に安置することが流行った。それが現存するのは浄瑠璃寺だけという。

浄土信仰の基礎をつくったのは平安時代中期、『往生要集』を著した比叡山横川の僧源信で、多くの経典や論書から、極楽往生に関する重要な文章を集めた。死後、極楽に往生するには、一心に仏を想い念仏の行に励む以外にないと説くとともに、地獄・極楽の様相や、後に徳川家康が旗印に掲げた「厭離穢土欣求浄土」の思想を広め、貴族をはじめ庶民にも浸透していった。鎮護国家の教えとして受容された仏教が、一人ひとりの救いの教えとなったのである。

後生の一大事

世界最古の小説とされる紫式部の『源氏物語』にも源信の影響がみられる。物語の最後、「宇治十帖」に登場する浮舟は、源氏の次男薫と今上帝の三の宮・匂宮（におうみや）に愛され、葛藤から入水自殺を図る。幸い、浮舟は死に至らず、比叡山横川の僧に助けられ、やがて尼になるが、この僧のモデルが源信とされ、紫式部の浄土信仰がうかがえる。

古代の仏教は宗教を超えた総合的な学問で、音楽から絵画などの芸術から建築、土木技術まで、当時の最先端の知の集積として渡来してきた。部族連合体から統一国家への転換期にあった日本にとっての幸運で、以後、律令制と仏教による国づくりが進められた。

飛鳥時代から奈良時代にかけて学ばれた仏教が、古来からの神道と習合し、日本独自の宗教として発展したのは、最澄と空海の登場が大きい。平安仏教は貴族仏教と言われるが、現世利益の願いは階層に関係なく、もともと平等意識の強い日本社会で、やがて庶民にも浸透していった。その際、中心になったのが、後に易行とされた浄土教である。

浄土信仰の核心は源信の言うように「後生の一大事」、人は死んでからどうなるかである。その後、衆生の救いを本願とする阿弥陀如来に身を委ねることを説く教えが法然の浄土宗として広まる。念仏は本来、仏を念じ、見ることで、それなりの修行を要したが、法然によって、南無阿弥陀仏と唱えるだけでよいという称名念仏の教えとなった。弟子の親鸞はそれをさらに先鋭化して絶対他力を説き、当時、一般的だった現世利益の祈祷や呪術を否定、神祇不拝を主張した。源信がまとめた「臨終行儀」も自力だと拒否したという。

もっとも、小山聡子・二松学舎大学教授の『浄土真宗とは何か』（中公新書）によると、親鸞の教えは他力と自力の間で揺れがあり、妻や弟子たちには当時の風俗にならう傾向があったという。

浄土真宗が日本思想史でさらに大きな役割を演じたのは、明治の近代化においてである。キリスト教に基づいて近代的個人主義を発達させた西洋文明に対抗できるのは、一神教に似た阿弥陀一仏信仰の真宗だとして、キリスト教の浸透を防ぎつつ、近代的自我の形成に役立つ教えとして知識層に受け入れられた。その象徴の一つが倉田百三の『出家とその弟子』で、人間親鸞を手がかりに自身の生き方を考える「教養人」を多く生み出した。

そして現代、福祉が政治の基本課題となり、歴史的に宗教が担ってきた分野の多くが、宗教の外に出ていった。しかし、科学技術がいくら発達しても、人がやがて死ぬことに変わりはない。

死を思い生を深める

俗に釈迦から一番遠い仏教が浄土真宗と言われるが、いわゆる二種回向の教えは釈迦に近いのではないか。人は亡くなると浄土に往って阿弥陀如来に救われ、その後、現世に還って、縁ある人たちを仏に導くという往相回向と還相回向である。

弟子に死後のことについて聞かれた釈迦は、分からないことを考えるより、今どう生きるかを考えるよう諭した。また、釈迦の死後、どう生きたらいいか聞く弟子に、「自燈明法燈明」と、自分自身と宇宙の真理を灯りにすればいいと語った。

これを現代風に考えると、死後のことは阿弥陀仏に任せ、いわば棚上げして、現世で人々のために全力を尽くせとなる。生物学的には、死は進化のためで、命は子孫に継がれていくという。その知見は、柳田國男が『先祖の話』で言う、死者は子孫の近くにいて見守っているという日本人の死後観と矛盾しない。

「祈り」は相対的な人間が絶対的な存在への語りかけであり、「救い」とは有限な人間が無限の宇宙とつながる感覚ではないか。逃れられない死を思うことは、そのきっかけであり、生の深まりにつながることは今も昔も変わらない。

総本山善通寺で舎利講
釈迦の遺徳偲び、平安祈る
香川県善通寺市

弘法大師生誕1250年の旗が立つ善通寺五重塔

香川県善通寺市にある真言宗善通寺は総本山善通寺の御影堂で7月1日から16日にかけて、釈迦の遺徳を偲び、寺内外の平安と五穀豊穣を祈る法会「舎利講」が営まれた。例年は1か月にわたり行われるが、今年は弘法大師生誕1250年記念事業開催のため期間が変更された。

14日の午前9時、導師と僧たちが入場し、法要が始まった。御影堂には近所の人たちやお遍路さんが集まっている。法会では、読経に続いて、釈迦をたたえる和讃を一同で唱え、最後に舎利拝戴があった。

舎利は仏教の開祖、釈迦の遺骨のことで、仏法を象徴するものとして尊ばれている。

また、釈迦が在世の頃、雨季に弟子たちを集めて説法や修行をした「夏安居」（げあんご）にちなみ、寺内の僧侶が日替りで説法し、日ごろの研鑽を披露する。

この日、説法したのは4月に善通寺に勤め始めたばかりの28歳の柿本真宥さん。大阪の在家に生まれ、自衛隊を退職した父が仏教系大学に再就職したのを機に得度し、奈良県の信貴山朝護孫子寺の僧になったことから、父に連れられよく同寺に通うようになる。大学卒業後、消防庁に就職し、119番の電話応対の仕事に疲れ果てた時、信貴山で聞いた話に救われ、知人の紹介で京都の泉涌寺で修行を始めた。

午前の修行を終え、午後の修行に向かう途中、数人の人に取り押さえられ、問い詰められたが、修行中、口をきいてはいけないので話せない。それに気づいた人がとりなしてくれた時、目の前に輝くような人が現れ「修行を頑張ってください」と話しかけられた。それが秋篠宮文仁親王殿下だった。紀子妃と共に歴代天皇が眠る同寺を訪れていて、真宥さんは警護員に取り押さえられたのである。

それをご縁と思った真宥さんは仏教の世界に進むことを決意し、消防庁を退職した。去年暮、善通寺で伝法灌頂を受けた真宥さんは、勧められるまま同寺に就職したという。「ご縁は周りに散らばっていて、求めれば得られます」と話を結んだ。

善通寺は、唐から帰国した空海が、父の寄進した土地に師の恵果が住んでいた長安・青龍寺を模して建立したと伝わる。弘仁4年（813）に落慶し、父の諱・善通（よしみち）から善通寺と号した。正式には屏風浦五岳山誕生院善通寺で、山号の「五岳山」は寺の西にそびえる香色山・筆山・我拝師山・中山・火上山の五岳に由来し、山々が屏風のように連なることから、当地はかつて屏風浦とも称されていた。

善通寺御影堂での舎利講の法会

本紙定期購読のお申し込みは
■ご希望購読期間 ■氏名 ■郵便番号 ■住所 ■連絡先電話番号 ■メールアドレス（お持ちの場合）を明記の上、宗教新聞社宛、はがき、FAXまたはEメールで左記へお申し込みください。
〒一六〇―〇〇二二 東京都新宿区新宿5―13―2―4F
電話03（3353）2940
FAX03（5363）5182
e-mail:religion@sage.ocn.ne.jp
http://www.religion-news.net
※購読料 年間6000円（税・郵送料を含む）

縄文のパワーフィールドへ
神道よ！今こそ《古来の本物の道》に戻るのだ！
奈良泰秀
エハン・デラヴィ 著
本物のシャーマニズムを日本人が忘れている。神道の潜在力を思い出し、世界に伝えていこう。ケルト民族末裔の意識研究家が、神道のエッセンスを聞き出す。チャネラー、ヒーラー、コンタクティを超える、宇宙と直接つながる知恵は、ここ日本の神道にあり！
四六上製1785円（税込）
株式会社ヒカルランド
〒162-0821 東京都新宿区津久戸町3-11
電話：03-6265-0852 FAX：03-6265-0853
http://www.hikaruland.co.jp

日本よ、蘇れ
日本神話の知恵
出雲井晶 著
ゆがんだ歴史観、家庭の崩壊、教育の危機…。いま日本は大きな危機に瀕しています。この現状を打破するカギは、実は「日本神話＝古事記・神代」にあるのです。日本神話に満ちあふれる、愛と生命と知恵に立ち返ってこそ、日本の未来は拓けます。あなたも著者といっしょに「神話の教え」をひもといてみませんか？
●定価1000円（税込み）
●四六並製 232ページ
●発行・産経新聞社／発売・扶桑社
お問合せ先／扶桑社 販売企画部
〒105-8070 東京都港区海岸1-15-1
TEL03-5403-8859
購入申込み FAX:03-3578-3075

日本宗教の闇
室生 忠 著 四六判・520頁 定価：本体2,000円＋税
拉致監禁による強制棄教との戦い
信教の自由が保障された今の日本で、強制棄教を目的に拉致監禁が行われている。職業的強制改宗屋が家族を巻き込み、信者を拉致し、部屋に監禁して、脅迫的説得により棄教を迫る。特に世界平和統一家庭連合（統一教会）やエホバの証人の信者に被害者が多く、中には12年以上の監禁された人もいる。驚くべき宗教迫害のリポート。
アートヴィレッジ
受注センター
〒657-0846 神戸市灘区岩屋北町3-3-18・4F
TEL078(882)9305 FAX078(801)0006

日本国始め 饒速日大神の東遷
大野七三 著
須佐之男尊の出雲国創建後、饒速日尊が32従者と25軍団を従え、九州から大和に東遷して纏向の地に大和国を建国。その時、饒速日尊が配下を募り配置した今も残るその出自と足跡を立証する。
『先代旧事本紀』の神髄を極めた著者が語る。足で調べた大和建国の謎。
（定価：本体2000円＋税）
批評社
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36
鳳明ビル102A
TEL03-3813-6344 Fax03-3813-8990

自由社ブックレット2
理想の政教分離規定と憲法改正
四六判87頁／本体価格500円
杉原 誠四郎 著
憲法改正を見据えたとき、宗教に関する条項、規定は、真剣に考えねばならない問題である。
自由社
〒112-0005 東京都文京区水道2-6-3
Tel03-5981-9170 Fax03-5981-9171
http://www.jiyuusha.jp/

新刊！
人生の苦しみに積極的な意味はあるのか？
『21世紀に生きる日本人のための浄土思想』の出版を記念して、平成26年3月から28年11月までの5回にわたる講演をまとめた著者渾身の生命の書。
私の生命の復活
上橋 泉 著
四六判296頁（本体1500円＋税）
日本人の宗教性（霊性）は回復するか？
株式会社 如月出版 販売部
〒152-0023 東京都目黒区八雲2-24-15
ラ リュミエール1F
TEL03-6657-9000 Fax03-6657-8999
http://www.kisaragibook.com

たま出版
www.tamabook.com
魔のJR中央線
自殺霊の撮影で判明したこと
齋藤 齋盛 著
十年の歳月をかけ、ついに自殺者の霊の撮影に成功。霊能者が書いた自殺防止の書。死んでも痛みは残るもの、自殺者の言い分。こんな苦では、自殺をした状態で霊はさまよう、硫化水素自殺、政治家と自殺、自殺の多いJR中央線の謎を解く！
四六判158頁 定価1,365円（税込）
アシレス出版部発行
お近くの書店にない場合は下記へ 送料210円
〒229-0002 相模原市渕野辺本町2-17-14
TEL042(751)2558 FAX042(754)1818

山喜房佛書林
神野富一 著 A五判 五八〇頁 本体一六、〇〇〇円
補陀洛信仰の研究
チベット・アジア各地の補陀洛信仰とその伝播ルート等の集大成
福田亮成編 B六判 二九〇頁 本体五、八〇〇円
弘法大師聖句集成
本書は大師の言葉が読者の心に直接届くよう工夫され、掲示伝道や寺報の種子に最適。
〒113-0033 東京都文京区本郷5-28-5
TEL：03-3811-5361 FAX：03-3815-5554